



「まちごの子供たちの品格」

校長 五十嵐 俊子

先月は、開校55周年を記念して作ったオリジナルの「まちごバンダナ」が大活躍でした。若木マークの校章が散りばめられた鮮やかなライトグリーン「まちごバンダナ」。最初に披露されたのは第5学年の川上村移動教室です。その後、校外学習や社会科見学等があるたびに、校外での活動時に安全を確保するという目的で身に付けています。

校外学習の引率で、子供たちと過ごしているうちに、ふと感じたことがあります。一言で言い表せば、「品格」でしょうか。これはバンダナの効果ではなく、もともと町五小の子供たちが持ち合わせている良さなのでしょう。すてきな動きをしている子供に目をやると、バンダナをつけています。活動の様子がよくわかるので、それがひととき目立って感じるようになりました。

例えば高学年ではこんな場面がありました。移動教室の山登りでの出来事です。昨日から足を痛めた友達を励ましながら、荷物を交替で持ってあげていました。他校の子供たちが先を争うように追い抜いていっても、決して焦らず、ゆったりとして友達をかばっていました。温かい、すてきな町五の子供たちの姿が見られました。

そして低学年でもこんなことがありました。多摩動物公園への電車の中での出来事です。電車の中は本当に静かでした。手すりにしっかりとつかまり、長い時間でしたが、座席に座ることもなく、笑顔で景色を楽しんでいました。穏やかで周囲のことにも気をつかえて、感心してしまいました。

子供たちのこの「品格」の良さは、家庭や地域の温かさからきているのかもしれませんが。保護者の方とお会いすると、いつもさわやかな挨拶をしてくださいます。また、先日の「ふれあいサタデー」のように、この玉川学園地域には、子供たちのために何年も講座を開き続けてくださる方がおられます。「年をとりましたが、がんばれるだけがんばります。」「オリンピックに向けておもてなしの心を育てましょう。」「子供の素直な発想を大切に、表現力を育てたいですね。」「柔軟な子供たちに、できるだけいろいろな体験をさせてあげたい。」・・・。柔らかな口調で熱い想いを語ってくださる方がたくさんいらっしゃいます。とてもありがたいことです。

最近、テレビ等で、熱い想いはあるものの、他人の意見の揚げ足をとったり、自分本位に話していることを正論だとしてまくし立てたりしている人たちを見かけます。また、世間的には立派な振る舞いをしていても、身近な人の前では横暴・粗雑になってしまう人もいます。そういう大人にはなってもらいたくないなと思ってしまいます。

町五小の子供たちに感じる優しさ、穏やかさを大切にしたいと思います。人とのつながりを大切に、いつも変わらずに自分の気持ちを保てる「品格」を持ち続けてほしいと思います。

「まちごバンダナ」は、今、町五小の子供たちの品格を象徴するものになっています。今後も、子供たちみんなが、町五小を誇りに思うような学校にしていきたいと思っています。

Halloween's Day, please.

ハロウインの日に「子ども110番の家」を巡るとい、ころころ児童館のイベントに、教員も参加しました。不審者、急な雷雨、Jアラート等、非常時に、子供たちが「たすけて!」と駆け込ませてもらえるように、願いをさせていただきました。

